



～「学び」「育ち」をつなぎ、自立して共に生きる子どもを育てる～

笠岡市教育委員会 一貫教育推進室

笠岡市は、「学びの連続性、系統性」「育ちの連続性」「教育環境の連続性」を目指した小中一貫教育を実施し、確かな学力の向上・豊かな心の育成・健やかな体をもつ子供を育成していきたいと考えています。

では、小中一貫教育によってどんな成果が期待できるのか、また、逆に課題としてはどんなことがあるのかを紹介したいと思います。

Q 小中一貫教育を導入する学習指導上のメリットは何ですか。

A 小中一貫教育の取組を行ってきた自治体では次のような成果が報告されています。

- ①児童生徒の学習意欲の向上
- ②全国学力・学習状況調査等の学力調査の結果の向上
- ③小学校・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識の向上
- ④指導内容の系統性についての教職員の理解の向上

Q 小中一貫教育を導入する生徒指導上のメリットは何ですか。

A 小中一貫教育の取組を行ってきた自治体では次のような成果が報告されています。

- ①いじめや不登校、暴力行為の減少
- ②児童生徒の規範意識の向上
- ③小学校・中学校の教職員間で協力して指導に当たる意識の向上

中学校教員による乗り入れ指導を行う中で多様な情報を集約したり、小学校・中学校の教職員が合同で研修を行ったりして、双方の教職員が協力して指導に取り組むことができます。

Q 小中一貫教育の課題は何ですか。

A 小中一貫教育の取組を行ってきた自治体で次のような項目が大きな課題として挙げられています。

- ・小中の教職員間での打ち合わせ時間や研修時間の確保
- ・児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保
- ・教職員の負担感・多忙感の解消

対応策として考えていること

- ・テレビ会議等の ICT 機器の活用、会議の見直し(案件の精選)、小中一貫教育カリキュラムの活用等により、教職員の打ち合わせや研修時間の確保につなげていきたいと考えています。
- ・児童生徒の交流の際は、市でバスを用意したり、リモートの交流を取り入れたりしたいと考えています。

笠岡東中学校の先生による乗り入れ授業&中学生による陸上運動の指導

10月21日(水)、笠岡東中学校の3名の体育科の先生が、中央小学校の6年生に乗り入れ授業を行いました。子供たちは、短距離走、ソフトボール投げ、走り幅跳びの3種目をローテーションで回り、中学校の先生から専門的な指導を受け、学習意欲も高まったようです。また、小学校の先生も今後の指導の参考になったことと思います。中学校の先生から、『集合は早く、移動は駆け足で、あいさつ・返事ははっきりと』が中学校では基本です。』と、中学校へ向けての心構えの話もありました。

また、神内小学校では、例年、市内の陸上記録会に向けて希望者が放課後の陸上練習を行い、笠岡東中学校の陸上部の生徒が指導に参加しています。今年は、コロナ禍で実施できていませんが、中学生、小学生の双方にメリットがあります。技能の向上はもちろん、中学生は、自分は役に立っているという自己有用感、小学生は中学生に対してのあこがれのイメージを育むことができます。



新吉中学校1年生がリモートで中学校生活を伝える！

11月24日(火)、新吉中学校の1年生が、吉田小学校と新山小学校の6年生とリモートで交流しました。小学校と中学校、また、小学校同士の交流を通して、中学校進学への不安の軽減につながることをねらいとして行われました。

まず、中学生が中学校の行事、学習、生活、委員会、部活動について説明しました。「中学校では、委員会や部活動で先輩との関わりが深いので、困ったときは頼ってくださいね。」という中学生のことに頼もしさを感じ、2校の小学生も聞き入っていました。

次に、中学生の代表2名がユーモアたっぷりに自己紹介を行い、小学生の緊張も一気にほぐれたようでした。中学生の温かい受容的な雰囲気の中、小学生も一人一人が自己紹介を行ったり、新吉中学校クイズに答えたりして交流が盛り上がりました。

さらに、中学生が作成した「ドキドキワクワクアンケート」で小学生の反応を確かめ、自分たちの活動の振り返りに生かす取組も行われていました。

